

2004年度（平成16年度）第2回理事会記録

日 時：2004年8月23日（月）12:00～13:00

場 所：国立京都国際会館 Room104

出席者：廣川信隆（理事長）、河田光博、柴田洋三郎、高田邦昭、山科正平（以上、常務理事）、井出吉信、大野伸一、木山博資、近藤尚武、正村静子、菅沼龍夫、杉浦康夫、高野吉郎、竹内義喜、武田正子（以上、理事）、上田秀一、内山安男（監事）、依藤 宏（幹事）

欠席者：仙波恵美子、福本哲夫（理事）

・議事録署名人の選任

議事録署名人として大野伸一、杉浦康夫両理事が選任された。

・前回会議記録の確認

2004年度（平成16年度）第1回理事会記録（案）、同理事会議事録（文科省提出用）（案）が承認された。

・報告事項

1．申請による学術評議員追加審査結果

郵送による投票で実施された標記審査の結果が報告された。

2．日本学術会議の改組

日本学術会議の改組内容について報告がおこなわれた。（詳細は学術会議ホームページあるいは2004年度第3回常務理事会記録をご参照下さい。）なお、この改組の根拠となった日本学術会議法の改正は平成16年4月1日に公布された。

3．解剖学用語集（解剖学用語改訂13版）の出版

標記に関し「著作権契約書」、「出版に関する覚書」が正式に医学書院との間で取り交わされたこと、およびその内容の要点についての報告がおこなわれた。

4．化学物質過敏症に関する国会質問主意書と答弁書について

先般の文部科学省よりの解剖実習における「化学物質過敏症等に関する調査」の背景となった標記質問主意書とそれに対する政府の答弁書について説明がおこなわれた。

5．賛助会員および寄付申込状況

賛助会員20件、寄付23件26口の新規申し込みがあったことが報告され、推薦者各位に対する謝意が表された。

・審議事項

- 1 . 平成 16 年度科学研究費審査委員候補「推薦委員会」委員編成
資料をもとに説明がおこなわれ、審議の結果平成 16 年度委員案は承認された。
- 2 . 平成 18 年度、平成 19 年度総会・全国学術集会開催校
平成 18 年度には北里大学医学部から、平成 19 年度には大阪大学大学院医学系研究科から、それぞれ開催校としての希望が出されている旨の報告があり、審議の結果、承認された。
- 3 . 平成 16 年度総会・学術評議員会資料の確認
- 4 . 平成 17・18 年度役員選出選挙スケジュール
標記スケジュール（案）が提示され、承認された。
- 5 . IFAA 関係ならびに「京都宣言」について
IFAA 総会における Constitution 改正案への提案事項、および基幹科学としての解剖学の重要性とそれに向けての各国解剖学会の努力要請をうたった「京都宣言」の提案が諮られ、承認された。
- 6 . APICA への対応
海外関連団体に対する諮問委員会の「APICA への対応について」の答申が報告され、承認された。同時に日本解剖学会は今後組織体として APICA に関わってゆくこと、次期 APICA 開催国はトルコを日本としては支持することが承認された。
- 7 . 日本学会事務センターの破産について
（財）日本学会事務センターの破産にいたる経過、現状、今後の展望について資料をもとに説明がおこなわれた。事務センターの業務を引き継ぐ「受け皿」会社については数社より見積もりを取って検討中であるが事務の停滞を避けるため早急に決める必要があることから、常務理事会にその判断を委ねることが承認された。